

都市自治体を取り巻く 今後の経済・財政の地平

日本社会事業大学学長・東京大学教授

神野直彦

2017年7月11日

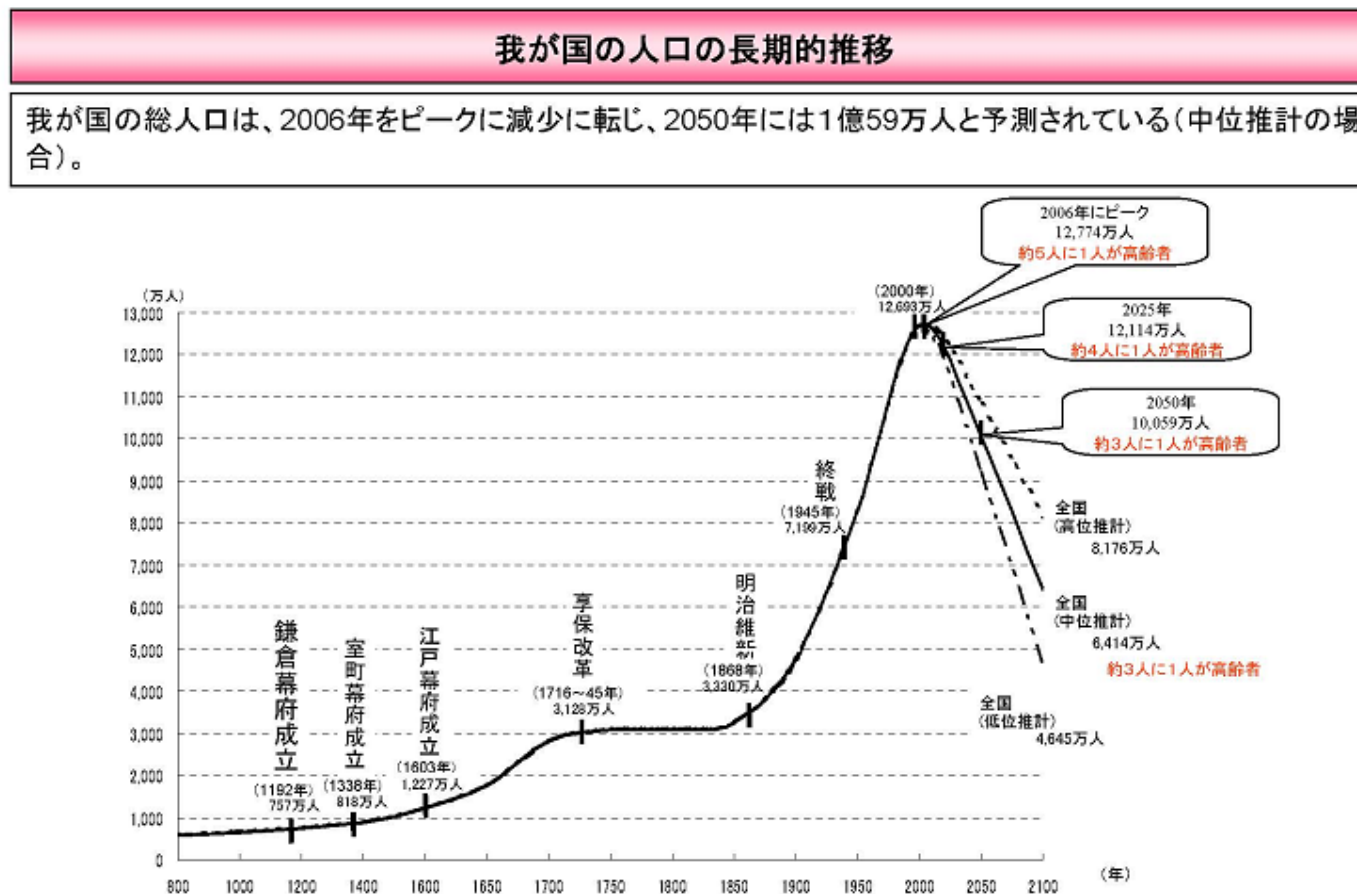
1. よみがえるテーベの恐怖

- (1) 憎悪と暴力が溢れ出し、方向性を喪失した人間の歴史を切り開き、新しい時代を形成することが、「危機」の時代に「生」を受けた人間の使命となっている。
- (2) 「生」の状況を理解することは、状況を秩序立てて整理し、自己の「生」と結びつけることである。
- (3) 「点」には長さも面積もない。ただ「位置」だけを示している。物事には必ず「点」がある。状況を秩序立てて整理するには、実感を批判して「点」を見極め、未来への海図を描く必要がある。
- (4) ギリシャ神話アンティゴネの舞台である古代都市テーベが未知の病いに脅えた時、その原因は誰もがわかっていて、それはコミュニティの崩壊である。
- (5) 憎悪と暴力の溢出によって、人間の歴史が混迷している原因は誰もがわかっている。共同体的人間関係が崩され、人間の絆が断ち切られてしまったという不安感が、世界中に溢れ出てしまったからである。

2. 人口爆発の工業社会の終焉

(1) 工業化による生産増加と人口増加の好循環

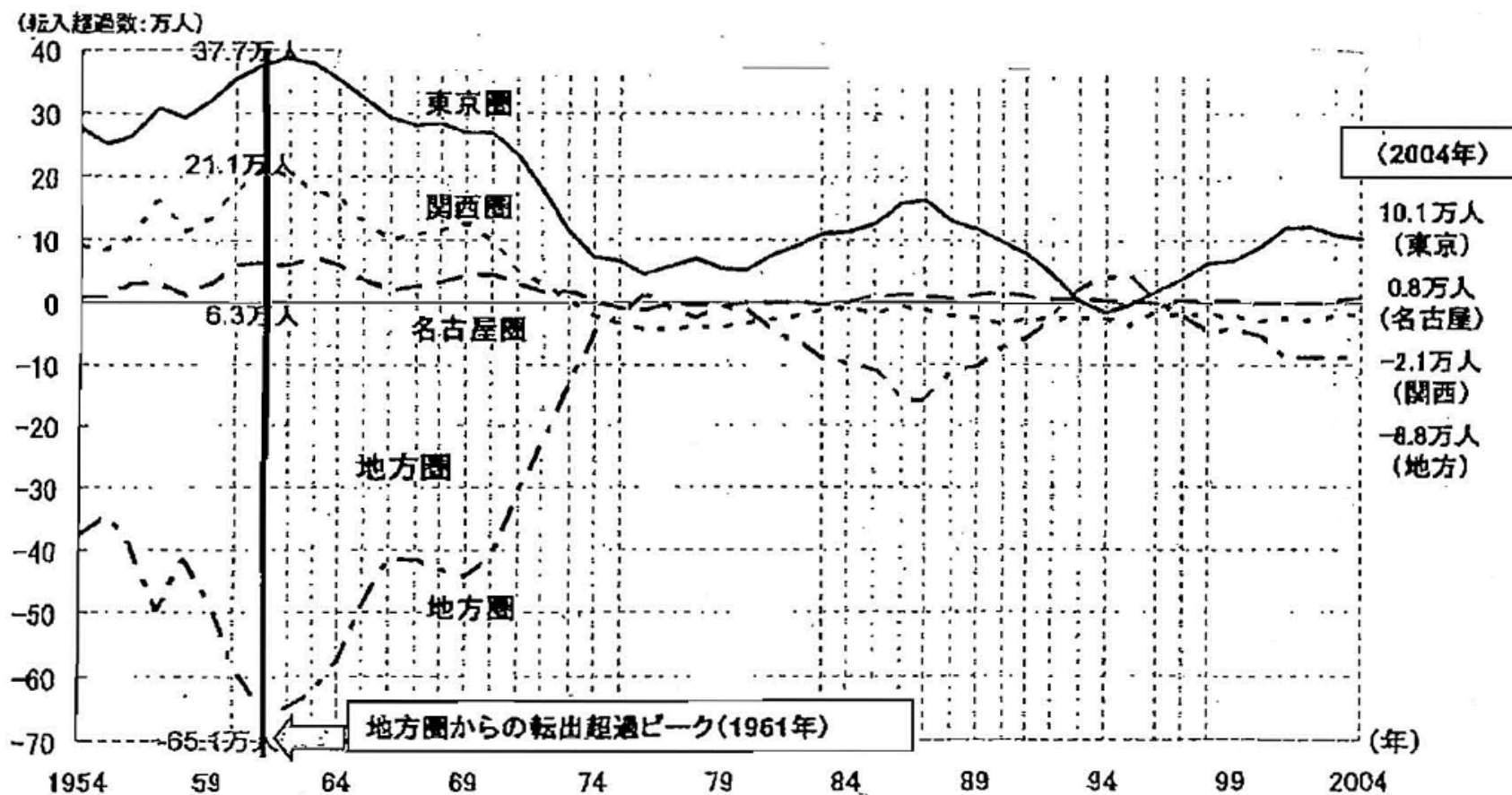
- ・農業生産では生産性上昇に自然的制約
- ・「飢餓の恐怖」からの解放 cf. 「プロト工業化」論では工業化が人口圧力に促迫されて生じる



（出典）総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」、国土庁「日本列島における人口分布変動の長期時系列分析」（1974年）をもとに国土交通省国土計画局作成。

(2) 工業化＝都市化による都市への人口集中

・人口流出入への推移



3. 脱工業社会へ舵を切る

(1) J.S.ミル(J. S. Mill)の教える脱工業社会

資本および人口の停止状態なるものが、必ずしも人間的進歩の停止状態を意味するものでないことは、ほとんど改めて言う必要がないであろう。停止状態においても、あらゆる種類の精神的文化や道徳的社会的進歩のための余地があることは従来と変わることがなく、また『人間的技術』を改善する余地も従来と変わることがないであろう。

そして技術が改善される可能性は、人間の心が立身栄達のために奪われることをやめるために、はるかに大きくなるであろう。産業上の技術でさえも、従来と同じように熱心に、かつ成功的に研究され、その場合における唯一の相違といえば、産業上の改良がひとり富の増大という目的のみに奉仕するというをやめて、労働を節約させるという、その本来の効果を生むようになる、ということだけとなるであろう。今日までは、従来行われたすべての機械的発明が果たしてどの人間かの日々の労苦を軽減したかどうか、はなはだ疑わしい。出所:ミル『経済学原理(四)』岩波書店,1961

(2) ノーベル経済学賞に輝いたサロー(Lester C. Thurow)の忠告

「さまざまな意味で、日本は第二次世界大戦後の資本主義の勝者であった。…しかし、ゲームの戦い方をうまく習得して勝利を収めてきた者が、ゲームが変わったことに気づき、新しいゲームの戦い方を学ばなければならないことに気づくのは、たいていいちばん後だ。この点で、日本も例外ではない」と。

4. 「生産機能」の立地する工業社会の都市

(1) 農業社会の都市

- ・生産機能は周囲の農村に
- ・都市には市場と自治

(2) 軽工業段階の工業都市

- ・生産機能が都市に立地
- ・都市は原料立地的に散在する
- ・生産機能が「磁場」となって都市に生活機能が集まる

(3) 重化学工業段階の工業都市

- ・企業規模が巨大化し、管理機能と工場機能が分離
- ・管理機能を集中させる中枢管理都市の登場
- ・中層管理都市に生活機能が集中すると、大市場が形成され、工場機能も中枢管理都市の周辺に立地

5. 生活機能を磁場とする知識社会の都市

(1) 2000年のリスボン戦略(ヨーロッパ理事会採択)

- ・「知識を基盤とした、世界で最高の競争力と活力を備えたものに改革する」

(2) サステイナブル・シティの戦略

- ・自然と人間の社会の自己再生力を持続可能にする
- ・工業によって汚染された自然環境を取り戻す
- ・緑と人間の絆の織り成す木陰のもとで子供を育てる

(3) 導き星としてのストラスブール

- ・市中での自動車禁止とLRT
- ・水の都の再生
- ・優秀な人材が集まり、優秀な人材が育つ
- ・研究機能、企画機能、管理機能と集中

6. 「質」の経済への三つの基本戦略

(1) 第一戦略—人間的能力向上戦略

- ・「盆栽教育」から「栽培教育」へ
- ・「誰もが、いつでも、どこでも、ただで」の
「やり直しの利く教育」←時間圧縮への対応
- ・経済成長と雇用と社会的正義を同時に達成する戦略

(2) 第二戦略—生命活動保障戦略

- ・環境と医療による生命活動の保障
- ・技術革新と市場の宝庫

(3) 第三戦略—社会資本培養戦略

- ・知識資本＝人的能力＋社会関係資本
- ・共同作業の参加による社会関係資本の培養

7. 「地域」を「発展」させる

- (1) 「発展する(develop)」とは開くことであり、「閉じる(envelop)」の反対語である。
内在しているものを開くことが「発展」であり、外部からの圧力で変形することは「発展」とはいわない。
- (2) 未来は誰にもわからない。すべての人には掛け替えもない能力がある。
- (3) 未来への「発展」はすべての人が掛け替えのない能力を発揮し、すべての地域社会が掛け替えのない「地域力」を発揮することで可能となる。
- (4) 「地域力」とは地域社会の構成員の個々の能力と、構成員相互の凝集力(＝社会関係資本)から成り立つ。
- (5) 「短所」を克服しても、高々人並みにしかねない「長所」を「発展」させてこそ、行き詰まっている人類の歴史に貢献できる

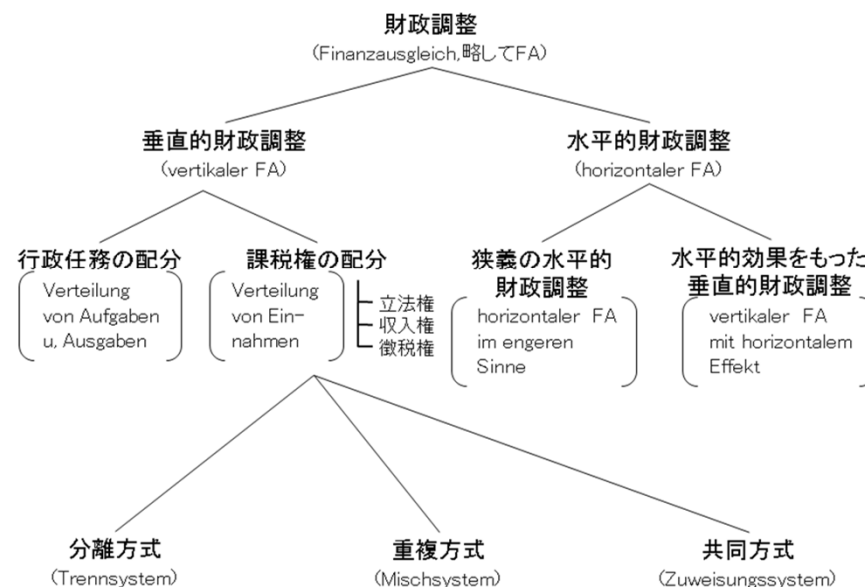
8. 政府間財政関係の理論

(1) 「第一次大戦の落し子」といわれる財政調整制度の産みの親ポーピッツ (J. Popitz)。

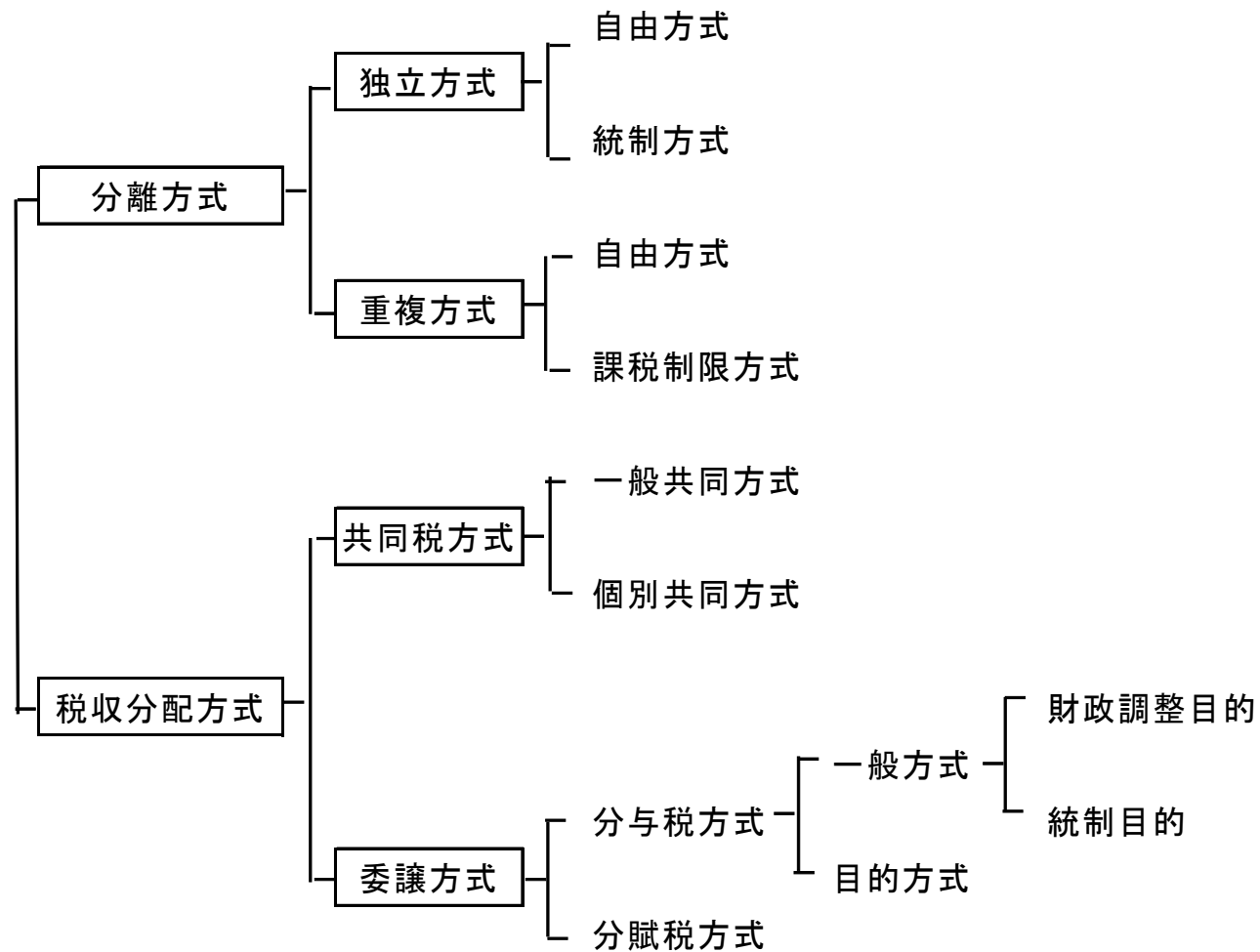
1920年代にワイマール共和国のもとでエルツベルガー (M. Erzberger) の改革で導入。

(2) ポーピッツによれば、「財政調整 (Finanzausgleich) とは、中央政府とそれを構成する地方政府との財政関係の総体である」と定義されている。

(3) 財政調整の概念図



9. 地方税の課税形態



10. 税源移動性基準と政府機能基準

(1) 国税と地方税との税源配分基準には二つある

(2) 税源配分の国際比較

租税収入の対GDP比(2006年)

(単位:%)

	所得・利潤課税						資産課税		消費課税						その他	
	総額		うち個人		うち法人				総額		うち一般消費課税		うち個別消費課税			
	中央	地方	中央	地方	中央	地方	中央	地方	中央	地方	中央	地方	中央	地方	中央	地方
(連邦国家)																
アメリカ	11.0	2.6	8.1	2.1	2.8	0.5	0.2	2.9	0.8	4.0	-	2.2	0.8	1.8	-	-
ドイツ	4.4	6.4	3.7	5.0	0.7	1.4	-	0.9	6.7	3.5	3.4	3.0	3.3	0.5	-	-
(単一国家)																
日本	6.3	3.6	3.3	1.8	2.9	1.8	0.5	2.0	3.8	1.4	2.0	0.5	1.7	0.9	-	0.1
スウェーデン	3.7	15.7	-	15.7	3.7	-	1.4	-	13.0	-	9.2	-	3.7	-	2.8	-
フランス	10.7	-	7.8	-	3.0	-	0.9	2.7	10.2	0.8	7.5	-	2.7	0.8	1.0	1.6
イギリス	14.8	-	10.8	-	4.0	-	2.9	1.7	10.9	-	6.7	-	4.2	-	-	-

注1) アメリカ・ドイツの「地方」は州を含む。

注2) 給与課税はその他、関税は個別消費税に含めた。

注3) Revenue Statistics 1965-2007(OECD)、National Accounts of OECD Countries 1994-2006(OECD)による。

(3) 人税は国税に、物税は地方税に

間接消費税は上流は国税に、下流は地方税に

注) 課税主体と課税客体

11. 故郷存続運動－故郷は近くにある愛するもの

すべての地域には独自の資源があり、それはいつの時代においても、そこに住む人間たちに生存の基礎を提供し、彼らの活動と発展の枠組みを与えてきた。人間は、自らの地域に根をもち生活をもってきた。その地域と自然とのかわり合いは、人間の社会的、文化的生活に浸透しており、人々の感じ方、考え方、ものの取り扱い方に影響を与えた。地域とのかわり合いは、人々の安寧および営みにとって基本的な意味をもってきた。いま、人々が近視眼的な利益を求めて、生まれ出たその環境を捨てて異郷へ移り住み、この地域が抜け殻のようになったとき、どんな結果が訪れるだろう。故郷を残そう、さもなくば無人となってしまう、という危機感が強い反響を呼び起こし、故郷存続へのたたかいを生みだしている。

地域開発が問題とされるとき、開発業者がもっともよく使う議論は「雇用の創出」である。しかし多くの場合、雇用機会は一時的であり、就労者の数も失われるものの価値とは釣り合わない。

質の高い人間的な環境をつくりだすには、その出発点として、全体的把握と自然環境に関する長期的な計画が要求される。あらゆる人間的な安寧は、何よりも活力のある自然環境に基礎を置くものである。それゆえ、私たちは、私たちの自然を守るという重要な課題をないがしろにし続けるならば、いずれはなんらかの罰を被ることになるだろう。

(『視点をかえて－自然・人間・全体』1998、新評論社より抜粋)

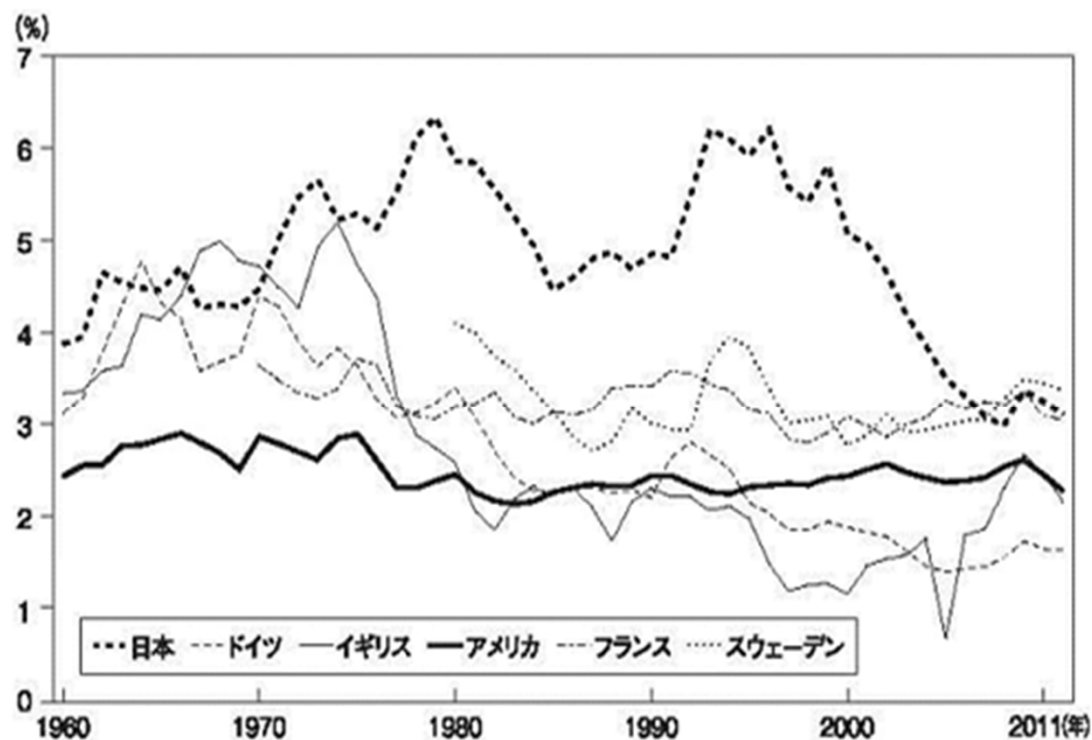
12. 社会的インフラストラクチュアと社会的セーフティネットを張り替える

「社会サービス国家」、「社会投資国家」を目指す

⇒租税による財源調整の必要性

(1)「土木事業国家」の継続

・世界の公的資本形成(一般政府総固定資本形成の対GDP比)

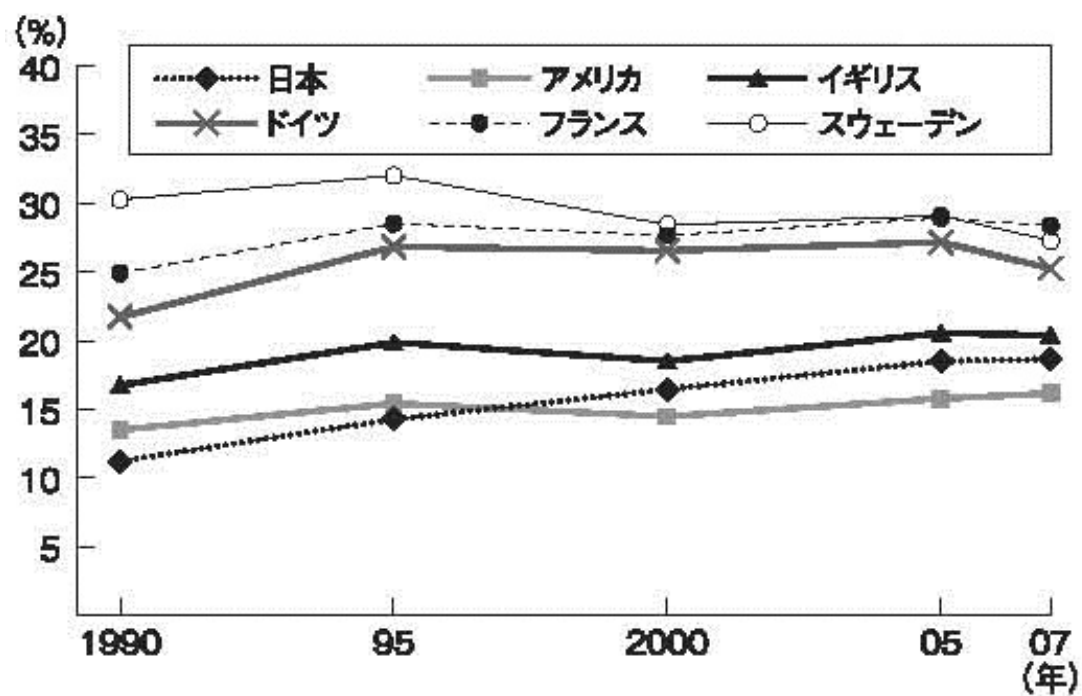


(注)1991年までのドイツは西ドイツの値。

(資料)OECD Statistics, 内閣府「国民経済計算確報」を基に作成

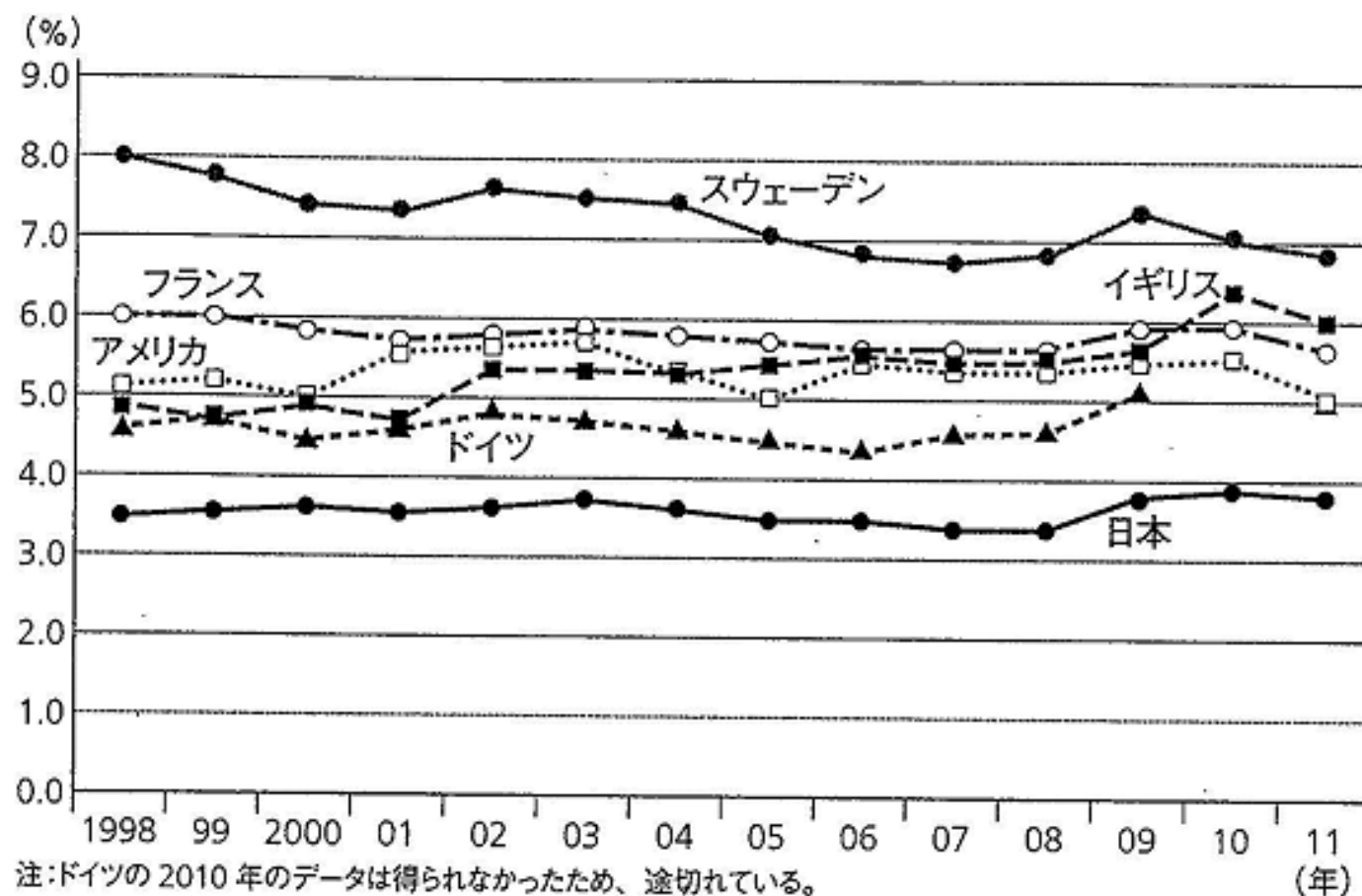
(2)物的インフラストラクチュアから人的インフラストラクチュアへの張り替えの失敗

・公的社会支出(対GDP比)



(資料)OECD Statistics, 厚生労働省資料を基に作成

・世界の教育への公的支出(対GDP比)



GDPに占める公的教育支出の割合

出典:OECD「図表でみる教育」(2014年度版)

13. 所得税の限界を消費税で補強する

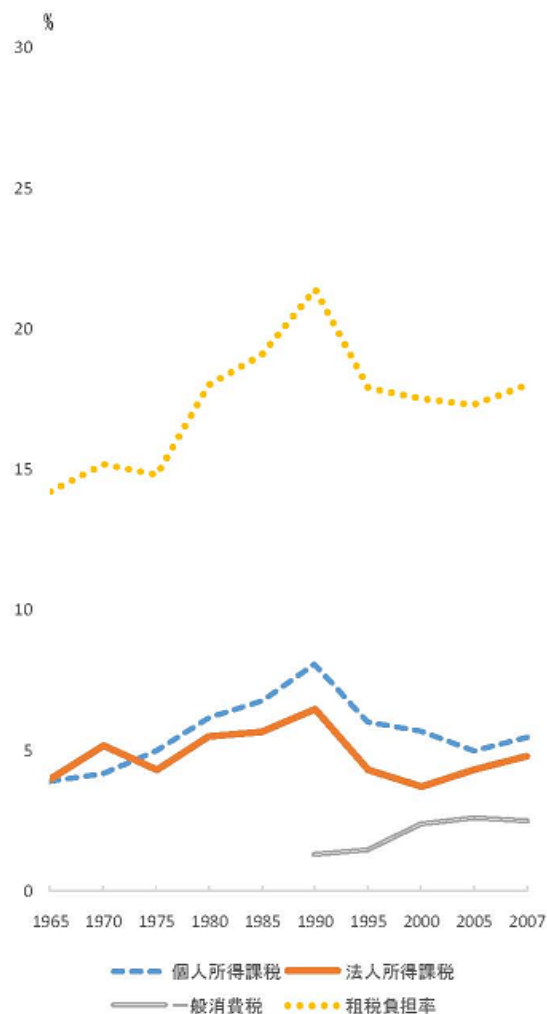
→所得税の不公平性

(1)所得だけでは経済力を捕捉できない

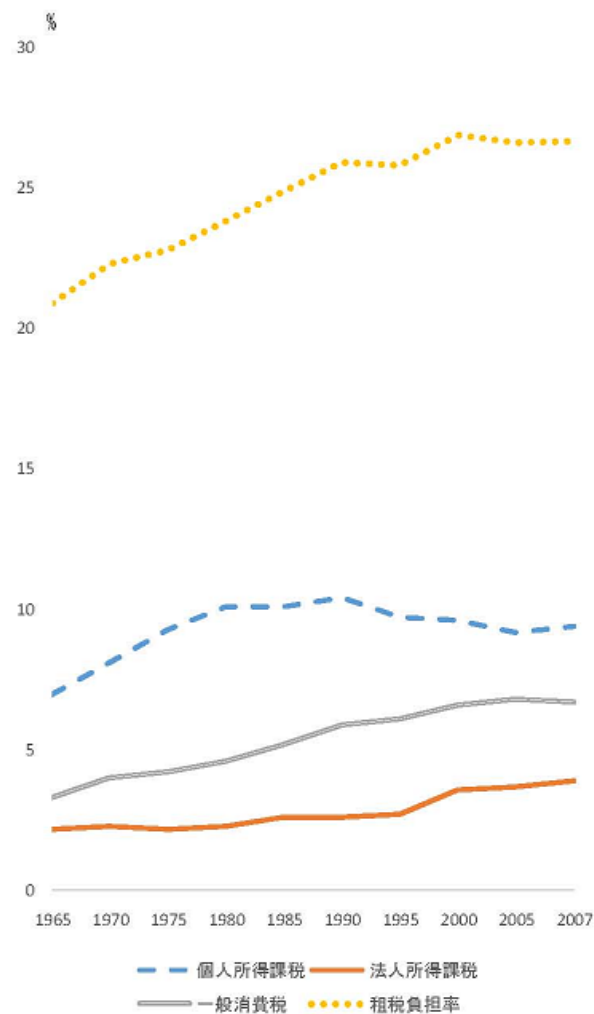
(2)所得の種類ごとに捕捉率に相違がある

→所得税と消費税を基幹税の車の両輪とする

・日本の租税負担率の推移

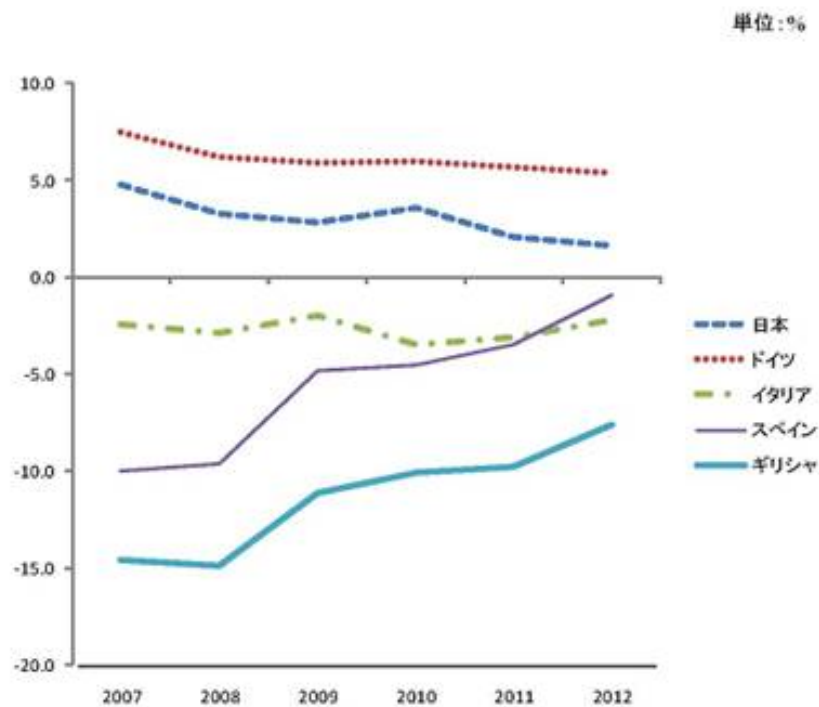


・OECD加盟国の租税負担率の推移



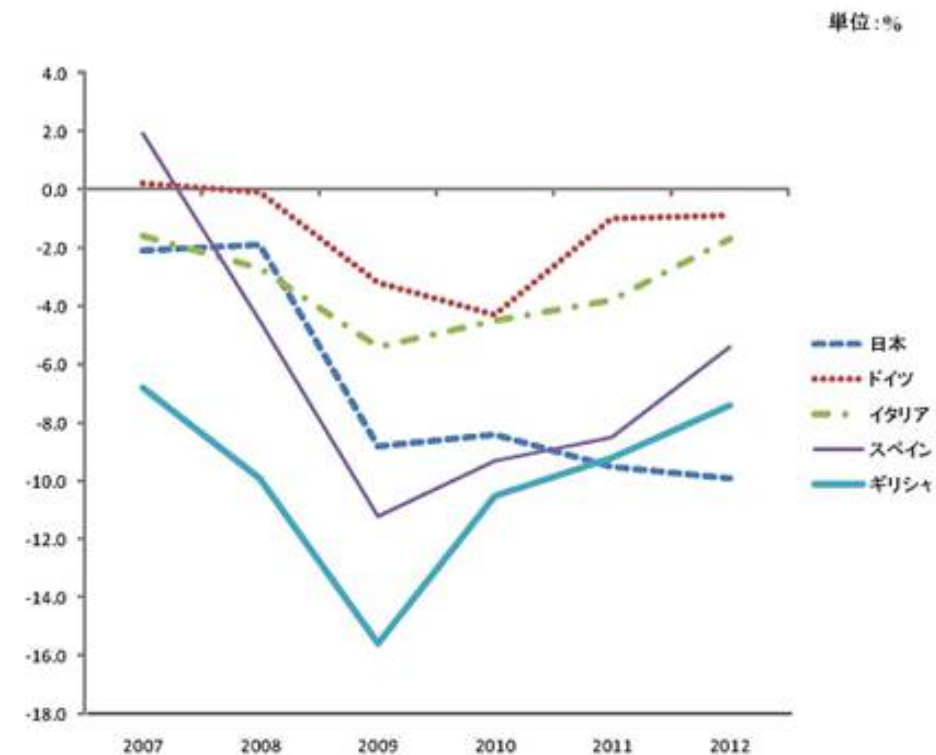
14. 「双子の赤字」で財政破綻

経常収支の経年比較(対GDP比)



出所: OECD Economic Outlook 91 (2012年5月)

一般政府財政収支の経年比較(対GDP比)



出所: OECD Economic Outlook 91 (2012年5月)

15. 「緊縮財政と金融緩和」の組み合わせによる景気回復の限界

金融緩和は異次元緩和からマイナス金利にまで踏み込んでしまった。
ついには現金税(ドイツのシルビオ・ゲゼル)まで唱えられている。

- (1)金融緩和による景気回復は、格差や貧困をとめない、かつ経済構造を転換させることはできない。
- (2)格差や貧困を抑えつつ、景気回復を可能にするには適切な財政出動しかない。
- (3)その財政出動とは、消費税の増税によって、「社会サービス国家」や「社会投資国家」を目指すことである。つまり、消費税を増税するとともに、保育や高齢者福祉サービスという社会サービスを充実させて、「新しい経済」への「参加保障」とするとともに、教育投資や再訓練という「社会投資」によって、「新しい経済」への「活動保障」を図ることである。

を選ぶことができます。

- 老人ホーム（食事付きセルヴィスヒュース）。
- 病院の長期療養部門^{★13}。

老齢化は年金者になったときから始まるのではなく、
私たちが生まれたときから始まるのだ。
老齢化は人生を通じて進む
イヴァール・ロー＝ユーアンソン

何もかもが、うまく整えられているわけではありません。しばしば交代する訪問介護職員は、老人たちの不安を引き起こしています。老人ホームの一部では、その部屋は狭くて12平方メートルしかなく、個別のシャワーやトイレもなく、自分の品物はわずかしき持ち込めず、宿泊するお客を迎えることや、自分の食事を調理することは考えられません。長期療養部門では、個室に入っているのは5人のうち1人にすぎません。

●……西暦2000年の高齢者福祉

人口予測によれば、西暦2000年には年金者は増加し、80歳以上の高齢者も、援助を必要とする者も急激に増加するとしています。これは、高齢者福祉への要望が高まることを意味しています。つまり、多くの高い教育を受けた介護職員、多くのセルヴィスヒュース、近代的な老人ホーム等々です。西暦2000年には、高齢者たち自身がどこに住み、どう生きたいかを選ぶようになります。そうなれば、これらの写真に見られるように、誰れもが同じように満足した生活を送れるようになるのでしょうか？

今、私は、仕事の休暇をとって、お祖母さんのお世話をする権利を使っているところです。私の収入は、社会保険事務所からのこれまでの給料にみあった保障金。これを「お祖母さんのお金」って言っています。お祖母さんにも私にも、これはありがたいです。
(ヴェラ 82歳、コーリン 22歳 親族介護者)



私は自分の家で、いろいろな自分の持ち物や思い出に囲まれて、快適に暮らしています。自分でできることは、もう多くはありません。けれども、私の介護をしてくれている職員さんは親切で有能でし、安全ベルもあるので、自宅に住み続けることができます。それは幸せなことです。
(アクセル 82歳 自宅居住)



私は、ここで気持ち良く暮らしています。部屋は一つだけでも、キッチンも付いていますし、綺麗でし、昔の家から運んだ、私にとって大切な物を置く場所もありますから。シャワーもトイレも付いています。私は、そうしたいときにはよく友達と往き来しています。職員のみなさんは、まるで最高のホテルのように、いつもきちんとして下さるのですよ。
(リンネア 82歳 老人ホーム居住)